

四谷の

千枚田だより



第 242 号

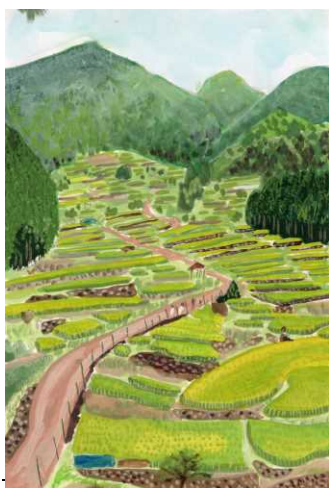


オオスズメバチ

四谷の千枚田絵画コンクール 入賞作品の紹介

「2023年四谷の千枚田絵画コンクール」(鞍掛山麓千枚田保存会・東三河郵便局主催 新城市・新城市教育委員会・新城市観光協会・奥三河観光協議会・東愛知新聞社後援)の入賞作品が決まった。

応募作品は東三河や名古屋、浜松市などの小中学生から四百六十一名の応募があり、最優秀賞五名、優秀賞十名、入賞三十五名を選んだ。入賞作品は十一月八日～二十三日まで鳳来寺郵便局、十一月二十五日～二十九日まで長篠郵便局、十二月一日～二十七日まで新城市役所ロビー、道の駅したら隣奥三河郷土館山びこの丘受付ロビー、観来館などで展示予定。(写真は最優秀賞者)

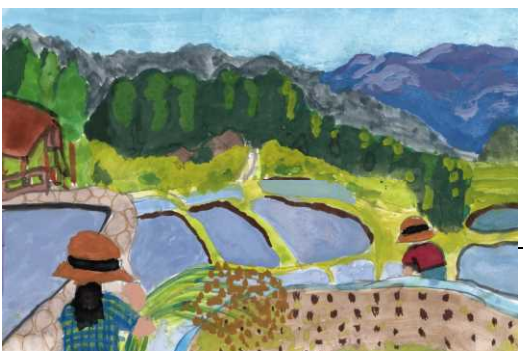


【最優秀賞】五名

浅井杏莉(名古屋市名東小三年) 小柳津里彩(豊橋市西郷小五年) 森川夏海(名古屋市名東小六年) 山本聖乃(豊橋市石巻中一年) 荻野希織(豊橋市石巻中二年)

【優秀賞】十名

舛岡大翔(名古屋市西山小一年) 園田莉央(豊橋市栄小一年) 大内愛音(新城市鳳来中部小四年) 和田愛菜(豊橋市多米小四年) 竹川龍之介(新城市鳳来寺小五年) 成瀬朱莉(新城市鳳来寺小六年) 紅林遼臥(豊橋市石巻中一年) 牧野実莉(豊橋市石巻



中一年) 渡辺美空(豊橋市石巻中一年) 宮本花(新城市鳳来中二年)

【入賞】三十五名

鈴木花(新城市千郷小一年) 藤平梯輔(新城市鳳来東小一年) 和田美紗希(新城市鳳来東小二年) 宮内王知(豊橋市二川小二年) 丸山結花(新城市鳳来寺小三年) 朝倉由衣(豊橋市玉川小三年) 伊藤理津(名古屋市名東小三年) 長岡藍丸(新城市東郷西小三年) 片山 絹(名古屋市上野小三年) 太田琴葉(新城市千郷小四年) 伊藤はる(新城市鳳来寺小四年) 石山幾夢(豊橋市飯村小四年) 斎藤琉生(岡崎市大樹寺小四年) 園田真彩(名古屋市西山小四年) 眞野純乃介(名古屋市藤が丘小四年) 竹下友菜(新城市千郷小四年) 川合梨心(新城市鳳来寺小五年) 牧野妃茉莉(豊橋市石巻小五年) 松本喜子(豊橋市汐田小五年) 白谷心美

(田原市清田小五年) 豊田勇之介(新城市黄柳川小六年) 秋山拓生(豊橋市玉川小六年) 野田茉莉香(名古屋市名東小六年) 林 さくら(名古屋市名東小六年) 中根颯汰(名古屋市西山小六年) 森下朋香(名古屋市名東小六年) 浅野尚映(新城市新城中一年) 伊藤さくら(豊橋市青陵中一年) 川越虎侍(豊橋市石巻中一年) 鳥山るい(豊橋市東陵中一年) 舟橋智麗(名古屋市振甫中一年) 田中詩乃(田原市東部中一年) 鈴木芽依(新城市鳳来中二年) 木下紗季(豊橋市南陽中三年) 西脇彩夏(名古屋市振甫中二年)

賞品は順位に応じ本年度新米・図書券・五平餅セットをお届けした。四谷の千枚田絵画コンクールは、八雲だんごでお馴染みの(株)丸八製菓(豊橋市)さんの多大なご協力を頂き、毎年開催している。

**中山間地域等直接支払制度
生産活動の実施**

十月二十一日、集落協定(直払い)に伴う活動(作業道の草刈り、沢沿いの除伐など)を実施した。

秋の千枚田環境整備活動の実施
十月二十九日、保存会は千枚田入口周辺、ふれあい広場、四阿周辺の草刈り等を実施した。

なお、この事業には愛知県新城設楽農林水産事務所建設課から「ふるさと指導員活動支援物資」として刈り払い機燃料が支給された。



写真の説明：急傾斜地 石積の棚田…過酷な農作業を強いられる保存会員。 おかげで知恵と根性、おまけに健康を戴き元気いっぱい！
=写真がぼけているか？ 皆 若々しい=

収穫感謝祭 予告

～さぁ つかまい 感謝を込めて 餅つきを～
開催期日 令和5年12月10日(日)
午前10時～午後2時まで
開催場所 四谷の千枚田「ふれあい広場」
皆んなでついた餅 シシ汁 焼肉(鳥長)
五平餅 その他もろもろ
主催 鞍掛山麓千枚田保存会
共催 棚田っ娘&地域の皆さん
ふるさと指導員 河西 忍 の愉快的仲間

千枚田五平餅 古米の出荷

古米は十月十六日に出荷した。四谷の千枚田の保存継承を熱望する(株)丸八製菓からは、側面から多岐にわたる支援(古米の買取り、絵画コンクール、リアル案山子の設置など)を戴いている。
その一つ、地道に千枚田を守る耕作者に少しでもお役に立ちたいと、毎年古米を購入して頂いており、千枚田の百姓衆はおかげで肥料も買えるし、おかげも買える…なんちゅったって「八雲様さま」だ。と大変喜んでいいる。
古米は「四谷の千枚田五平餅」と

して郵便局の宅配便で全国展開、好評を博している。なお、道の駅「もつくる」や八雲だんご直売所などでも購入できる。

おてつたびの研修受入れ

「おてつたび」はお手伝い(仕事)と旅を掛け合わせた造語。地域に興味がある若者とマッチングする『プラットフォーム』。そんな「(株)おてつたび」の企画する「視野拡大研修」をテーマに、奥三河観光協議会安彦局長を通して地域の宝 四谷の千枚田を会場に講師を依頼された。研修生は中部電力の若手社員で二十五日と三十一日の両日にスタツプを含め三十三名が研修に参加した。

冒頭、肩の力を抜くため中部電力技術研究所とは魚類養殖に使われている殺菌灯の技術提供などで深い関係があったことを紹介。厳しい棚田を耕す「百姓魂」や「生き様」は勿論、「私事で恐縮であるが」と前置きに、研究一筋に歩んだ(鳳来マスの作出、アマゴ、イワナ、アユ、海産ナマコ等々の養殖技術の確立、降海性アマゴ(サツキマス)の生態解明)苦労話や、渥美自然フォーラムの講演(藻場・干潟をテーマにした)によって藤前干潟(ラムサール登録干潟)が守られる一助になったこと、生物多様性国際会議(2020)愛知・名古屋招致に大きく貢献、天然記念物「ネコギギ」を世界で初めて人工受精で成功した達成感など、「継続は力なり」止まぬ雨はない」を主軸に研修を進めた。

お手伝いは、石積に生い茂った雑草を取り、見違えるほどきれいになった石積棚田を見て満足気だった。



棚田サミット

第二十八回全国棚田(千枚田)サミットが十一月十八日(土)～十九日(日)の二日間、和歌山県那智勝浦町で開催される。
鞍掛山麓千枚田保存会は高橋孝行、田中幸夫、丸地典利、松下 誠、小山舜二が参加する。

行 令和五年十一月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二